

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800325		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム あかるい家		
所在地	夕張郡由仁町東栄16-18		
自己評価作成日	平成31年2月9日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりお一人のニーズにおお合わせた無理のない目標に向かって一歩ずつ日々関りの中で努力いたして参ります。今までのように家族様・地域様・関り関係機関様のご指導ご協力を頂きながら一緒にケアさせて頂きます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0175800325-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0175800325-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あかるい家」は、JR由仁駅から徒歩で10分程の自然環境に恵まれた静かな住宅地に立地している。建物内は、清掃が行き届いた明るく開放感のある造りになっている。管理者と計画作成担当者を中心に全職員で理念を共有し、一人ひとりの利用者がゆったりと楽しく、ありのままの生活を継続できるように支えている。地域や事業所のお祭りで地域住民と交流したり、地域の交流会に参加して映画鑑賞やおやつを食べながら歓談を楽しんでいる。今年度は職業体験で来訪した中学生と折り紙やカルタなどを楽しんだり、近隣の子供たちと一緒に畑の芋掘りを行っている。馴染みの友人や知人の来訪も多く、家族の同意の下に一緒に外出を楽しんでいる利用者もいる。職員の資質向上に向けて外部研修に参加したり、年間を通して計画的に内部研修を実施している。職員の定着率も高く、質の高いケアが継続して行われている。介護計画も個別の「つぶやき」ノートに日頃の何気ない言葉や仕草を記入して、本人の意向に沿った計画につなげている。天候に応じて近隣を散歩したり、職員と一緒に買い物に出かけている。また、花見や紅葉見学、初詣やどんど焼きへの外出など積極的に外気に触れる機会を設けている。職員間のコミュニケーションもよく、率直に意見交換しながら個々に応じた適切なケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆様と隣り合わせが多い居間の食堂上部に掲げふつと目を向け、自然と呟いています。	「地域とともに」という文言を入れた地域密着型サービスを意識した事業所理念を作成し、ミーティングなどで確認している。日々のケアの中で掲示を見たり、サービス評価を行う時に意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的かつ柔軟に床屋さんのボランティア様。来所。週1では音楽療法助手さんのお手伝いで交流を楽しませていただいております。	由仁町のお祭りや由仁神社の神輿見学に出かけている。職業体験で来訪した中学生と折り紙やカルタ、百人一首などを楽しんだり、近隣の子供たちと一緒に畑の芋掘りをして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り、お誘い交流会。クリスマス等で地域七福会様、地域様との会話がございまして、協力のお礼と心身のご様子をお話させて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域、町内会、民生委員、福祉担当、それぞれ代表様の出席いただき、外部評価の報告、今後に向けた改善点の取り組みをお口添え頂きながらサービス向上に向け役立たせていただいております。	全家族に会議案内を送付し、外部評価や高齢者虐待、介護保険の手続き方法などをテーマに開催している。今後は、参加できない家族の意見も会議に活かしたいと考えている。議事録は、質疑応答などの記録が十分とはいえない。	参加できない家族にも会議内容が分かるように、質疑応答やテーマについての詳しい内容なども議事録に記載するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場、病院、消防様とは「推進会議、認定調査、入居退去時情報共有、火災訓練指導、受診入院治療、状態での転院先の紹介、情報と助言」頂きながら、ケア向上に努めております。	計画作成担当者が利用者と一緒に介護保険の更新申請で訪問したり、管理者が提出書類の手続きなどで訪問して日頃から行政と連携している。福祉施設関係団体連絡会共同募金委員会から寄贈品を受け取ることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止となる具体的な行為項目を確認、再度理解するためミーティングにて話し合う。車椅子常用様のずり落ちがあったため、フット置きに食事時間のみ安定していただいている。感情が高ぶっている場合のベッドでお昼寝時間帯のみ、柵の取り付けし安定されたら外す場合がある。	法人内に身体拘束廃止委員会を設置して3か月ごとに委員会を開催している。内部研修で「禁止の対象となる具体的な行為」を確認している。家族の了解を得てベッド柵を使用している事例についてミーティングで検討しているが、分かりやすく記録が整備されているとはいえない。	止むを得ず身体拘束を行う場合は、家族の同意書と共に検討会議の内容も分かりやすく記録を整備するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで11か条学習し、壁に貼り付け確認怠らぬように、入居者様の不穏な様子に無視はせぬよう、ケアのまずさが虐待に繋がらないか、勇気ある気づきとスタッフ同士の言葉がけ防止に努めている。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用されている弁護士さんとは、書類上の関り。送付書類関係は事務所の指示にて処理。新聞、雑誌、講習パンフレットなど、ミーティング確認回覧で学習行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、ご本人、法人側は代表、管理者、介護支援専門員、介護福祉士交え、病状、医師、生活上のご本人不安の取り除き、家族の疑問点を十分聞かせて頂いて理解を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人の要望、意見にはスタッフの話し合いで危険不都合ないか？じっくり見極めて話を進める。家族様とは、何気ない話から加湿器に掃除が行き届いていないご指摘があり即こまめな掃除を行った。	家族の来訪時や電話で近況を伝えて意見や要望を聞き取り、何かあれば職員に口頭で伝えたり家族会連絡綴りに記入している。毎月個別便りを発行して、近況や健康状態を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の業務の中で意見交換を行い検討し業務に反映させている。	毎月ミーティングを開催して意見交換している。感染症対策についての提案を受けて玄関にマスクや消毒品を整備したり、業務内容の見直しなども行っている。理事長は、職員がいつでも気軽に話しができる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各事業所を回る中で直接的、管理者を通し間接的に職員の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務に無理のない範囲で研修などに参加したりミーティング、回覧などで実践にいかせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な機会を通じて考慮し意見交換の場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて、環境に慣れていくべく手段としてご本人の不安を最大限に見極めるため、目を向けて話を聞かせていただく事に関係作りを行ないます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には今までの生活歴、病気経過をお聞きし、時間をかけてホーム生活の不安を見極め、取り除く努力をさせて頂くことで信頼関係を築いてまいります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族様のアセスメントに肉づけし優先順位を決めサービス計画書を作成致します。場合によっては、フォーマル・インフォーマルサービスも取り入れます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメント通じて意欲、興味・得意、不得意分野をしっかりと見つけ一緒に軽作業、手作業、レクのお誘いを促しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に精神心疾患の方の支援には、家族様との関わりは重要と考え、重要情報共有欠かさず、家族様の連れ出しに大きな喜びが伺えるので話しご協力がございます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の居住地の友達、宗教関係の仲間の来所が不定期にあり、食事の誘いもございませす、入居前の花札の友達はご本人の認知が進んでいるためかお誘いが少なくなっております。	趣味の仲間や宗教関係の知人が来訪し、家族の同意を得て一緒に外出している利用者もいる。家族と一緒に墓参りに行ったり、家族が入所している施設に面会に出かけている。ひ孫のお遊戯会に出かけている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常ソファ、食事時の座位場所が個々の身体状況を考えながら設定している。お世話、支え合い、話しかけ等孤立せず関わり合っております。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	さくねん町内病院から市外の施設へ入所された方の身元引受様から、その後も本人様の情報交換依頼があり最後まで関わらせていただきました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、思いや意向を表現できない場合、排泄状態、食欲、顔色、声の出し方、体の動かし方などを観察、共有の関わりを持ちあい、つぶやきノートに日々の何気ない言葉を書き留めケアに反映させています、	職員は会話や目線、仕草などから思いや意向を把握し、家族会連絡綴りの個別ノート「つぶやき」項目に記入している。センター方式シート(B-3・C-1-2)を毎年更新し、豊富な情報を蓄積している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報は家族、関り機関、本人様から情報収集。本人様にとって暮らしやすさを念頭にサービスを検討させて頂いております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、おひとりの暮らしやすさを見極め、以前の延長と、新しい関わりに徐々に慣れて頂くように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画3日月置きの見直し、評価踏まえ、家族様と一部の入居者様とは話し合いのもとで作成承諾いただいております。小さな目標は達成度はあっても流動的で更なる前進はなく現状維持の状態が現実です。	家族と本人の意向を、具体的な言葉で居宅サービス計画書1表に記載している。3か月ごとに職員が交代で評価を行い、計画作成担当者を中心に全職員で検討して介護計画を見直している。生活行動記録の特記事項に変化を記入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書と連動した日々の生活記録に個別に実践、結果、気づきを記録し特変、重篤の情報は重ねて連絡ノートに記載周知。ミーティングで再度状況の話し合いを重ね。プラン作成時に活用もしている。。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時生まれるニーズ対応に既存のサービスにとらわれず、フォーマル、インフォーマル、家族、地域様、民生委員、看護師、医師に相談し助けて頂くこともあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域様、民生委員様とは年数回、ホームでの交流を楽しみ、地域からのお誘いも年数回ございます。秋祭り、新年会、映画鑑賞など参加致し地域資源で皆様の活性が持続されております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後はかかりつけ医継続し、市内の受診は職員同行し、遠方は家族対応ですが、意向の元職員も同行も致します、病状状態により家族様の要望で訪問診療の紹介調整もさせていただきます。	往診を受けている方もいるが、殆どの利用者が職員の同行の下に受診している。家族と受診する時は、状況に応じて書面で主治医に健康状態を伝えることもある。受診記録は個別に記入している。	

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時は24時間体制で週1の勤務。医療的な学習、処置指導、助言、ミーティング出席、感染症の指導など一緒に学習行って入居者様の健康を維持させて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医、看護師とは日頃の関りを意識的に保ち「イザ」に繋げております。入院、退院時の関りの多いワーカさんとは名刺交換し、連絡取れる関係を作って、出向き早期の退院情報を頂いております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	k様、今年1月中旬まで重篤で終末期ケアさせて頂きました。緊急入院され10日後にお亡くなりになりました。入居時、法人家族で終末期の話し合の元、訪問診療医師の指示判断仰ぎながら関わらせていただきました。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って、事業所として可能な対応について説明している。身体状況の変化に応じて主治医の判断の下に家族と方針を話し合い、希望に応じて看取りも行っている。看取りの研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、転倒など過去、現在にもございますが、何時も初心の気持ちを忘れず、緊張を持ちながら職員助け合い対応、報告、記録を行って。反省も大い踏まえて身に付けております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画書を作成し非常時に備えています。	11月に消防署と家族の協力の下に夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、3月にも同様の訓練を予定している。地震時のケア別の対応について話し合った内容の記録整理を考えている。救急救命訓練の受講も計画的に進める予定である。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへのお誘い時も呼び方は「苗字」にさんづけを基本として。話しかけも静かな語り掛けに気を配っている。プライバシー保護にイニシャルを使い話に配慮している。	ミーティングで年間を通して認知症を理解し、身体拘束や虐待防止、接遇などの研修を実施している。職員はさりげない言葉かけや態度に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身体不調訴え多く判断できないでいる場合、温かな飲み物を差し上げながら、同じ気持ちになるように相槌打ちながら対応します。落ち着かれ安心され戻られます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆様本位な生活を基本としているが、スタッフ人数とその日のスケジュールで本位な行動ができない場合は別に、時間を作って行う約束をし、できるだけ対応させて頂きます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出、買い物、受診などホーム外に出かけるときは着替え、整容、バックなど気配り一緒に選びます。「お客様の来所でパーティ」また。誕生会、お正月などもお気に入りの洋服で楽しみます		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に持ち寄った漬物は毎回食卓に上ります、入居者様と畑で取り立てた旬の食材で季節感を味わい好き嫌いある方には味付、形態を工夫します。「テーブル拭き配膳、食器下げ、茶碗拭き」担当様で行なっております。	毎月の行事に合わせて食べる楽しみを工夫している。ボランティアによる手打ち蕎麦や寿司職人の握り寿司は好評である。利用者が菜園で収穫したもぎたての野菜の皮をむくなど、下準備を手伝っている。新鮮なサラダや枝豆、とうもろこしは茹でておやつで味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の疾患と食の量を把握し、嚥下状態も加味し、バランスづくりを致します。水分量は確認いたし飲み干していただきます。日々の記録記載行ってケアに役立っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け確認して、ケアを見届けます。不可能な方には、全面介助行いガーゼと綿棒なども使いケア致します。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできるだけ小パットを使い排泄パターンを皆様で把握し、トイレでの排泄に繋がります。	自分でトイレでの排泄ができるように習慣やパターンを把握して、個別の排泄支援に取り組んでいる。職員は時間や尿量によりパッドを使い分けるなど、気持ちよく排泄するために工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の予防に水分調整、特に、朝1と寝る前」、繊維質を調理に取り入れ日中は番茶で効果を促します頑固な場合は腹部温湿布で温めて排便に繋げております。リハで身体体操室内歩行もして頂きます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どうしても精神的なこだわりで拒否が続く場合、朝からテンション上げ元気な気分を持続頂、入浴後の甘い飲み物約束で入浴に繋がったり工夫しております。	利用者の入浴習慣や生活リズムを把握し、週2回の安全な入浴を支援している。入浴を拒む場合は、職員や入浴順、時間を変え好みの飲み物で気分転換となるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活パターンを把握し個々の思いのままに休息頂き、朝起きもばらつきがありますが状態を崩さないように心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容はかかりつけ医師処方に従い服用。変化がある場合、再度の受診しご相談し指示を頂き。周知スタッフで確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の役割が自然に決まり「朝の掃除、花の係、ウェスつくり、袋たたみ、カレンダーめぐり、カーテン引き、ゴミ出し、物置の整理、台所の手伝い」など気分転換兼ね一緒にいきます。お好きなコーヒー紅茶も楽しんで頂きます。		

グループホーム あかるい家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、白鳥見学、花見。畑作業、収穫、近隣コンビニ、町外化粧品買い物へ、公共機関、秋祭り、お寺、紅葉狩り、神社初詣、自宅へ、事務所へドライブ」へ2～3人くらい一緒に楽しみます。地域の行事参加も出来る限りピストン送迎で楽しんで頂きます。	2、3名ずつ初詣、桜や紅葉の名所に出かけたり、買い物、受診後に自宅近辺をドライブするなど少人数の外出支援が好評である。ゴミ出しや近隣の散歩、敷地内の菜園へ出かけて野菜の成長を楽しむなど、外へ出かける機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2～3人くらい所持。家族と話し合い手持ちはいつでも把握できるように小額としている。無くなったら家族に補充いただく。「確認は本人家族、スタッフ2人で」		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に用事がある場合電話取次行い安心頂きます。年賀状の差出は今年はお一人で5人出されました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の掃除に力を入れ共用場所は拭き掃除マメに行い、匂い優しい生花を飾り観葉植物で気持ちを晴らし大きな窓越しからは陽がサンサンと当たり景色を見ながらゆったりと過ごしていただいております。	リビングにはソファセットや食卓テーブルが置かれ、利用者は好きな場所でテレビを見て寛いでいる。大きなベランダからは季節感ある景色を楽しんだり、地域の様子も感じられる。トイレや浴室はリビングからは見えない造りで、共用スペースは清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内を自由に行き来され、車いすの方は出入りのしやすい場所に座り、居間で寛ぐ方は編み物、おしゃべり、好きな時代劇、相撲など楽しめます。一人でお部屋で本を読まれる方、昼寝される方もいらっしゃいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っている馴染みの生活用品、着類、写真などと一緒に暮らし癒しの縫いぐるみで何人かの方が一緒にベット休んでおります。お部屋の入り口には暖簾を下げプライバシーに気配りさせて頂いております。	使い慣れたベッドや寝具、家族写真や思い出の物を飾り、落ち着いた部屋作りを支援している。生活習慣を継続するために仏壇のお世話や、衣類が取り出しやすくなるように利用者と相談して整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からバリアフリーで障害物は置かず、居間は広く窓はあかるく大きく、食堂もゆったりとスペースを取り車いすが自由に動かせお部屋の暖簾でプライバシーに気配り行い廊下は全体に手すり設置安全な歩行が可能です。		

## 目標達成計画

事業所名 グループホームあかるい家

作成日：平成 31年 3月 25日

市町村受理日：平成 31年 3月 27日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・運営推進会議の内容は、さまざまなテーマで開催しているが、会議議事録は質疑応答などの記録が十分とはいえない。	・会議議事録に、わかりやすい内容で質疑応答なども記入していく。	・会議に参加できない家族にも会議内容が分かるように、質疑応答やテーマについての詳しい内容なども議事録に記載し家族に送付を行いたい。	1年
2	6	・身体拘束をしないケアの実践をしていますが、一部感情が高ぶっている場合、ベッドでのお昼寝時間帯のみベッド柵の取り付けしかなかったが、分かりやすく記録が整備されているとはいえない。	・やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族の同意書と共に検討会議の内容も分かりやすく記録を整備する。	・法人内の身体拘束廃止委員会を活用しながら事例検討し、内容等についても分かりやすく記録する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。